

## 公益財団法人大倉精神文化研究所 令和3年度事業報告書

令和3年度は、創立者大倉邦彦の没後50年という「節目の年」であり、令和4年の創立90周年を展望して、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備の3つの柱からなる「令和3年度事業計画」を着実に推進し、文化の振興に寄与しました。

なかでも、「節目の年」に相応しい事業として、所蔵資料のインターネット公開のためのデジタルアーカイブの構築と財団ホームページの全面改定、子どもを対象とした『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』の刊行、附属図書館における「やさしく読める心の本コーナー」の開設、などに積極的に取り組みました。

なお、令和3年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令や、まん延防止等重点措置の実施がありましたが、当財団は、新型インフルエンザ等対策特別措置法の趣旨を踏まえ、事業の実施に際し、適切な措置を講じてまいりました。

### 1 精神文化の研究及びその成果の普及

#### (1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団の活動は、精神文化についての学術的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料収集を行っています。

当研究所を創立した大倉邦彦は、自らの使命を實踐して社会に貢献するためには、清らかで強い心を持たなくてはならないと説き、当研究所で修養会等を開催しました。

そこで、令和3年度は「こころを磨き からだを鍛える」をテーマに、神道、儒教、仏教、キリスト教、武道、芸道、医学等様々な分野から心身の磨き方について研究を進めました。

また、紙問屋を経営する実業家であった大倉邦彦は、教育事業や精神文化事業を天から与えられた自らの使命と考え、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたと考え、当財団を設立しました。そこで、「世のために田を耕す—実業家の教育・福祉活動」をテーマに、教育・福祉活動に尽力した近代日本の実業家の功績と、その思想的背景についても研究を進めました。

その研究成果の一部は、大倉山講演会や、『大倉山論集』第68輯の特集(4頁参照)で公開しました。

#### 【大倉山講演会】

令和3年度は、大倉山講演会を以下の〈表-1〉に掲示した日程で開催いたしました。なお、新型コロナウイルス感染症対策として定員を利用可能人数の半数の40名とし、予約制を採り、検温・消毒を行うなどしました。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催:横浜市大倉山記念館指定管理者 会場:横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
第91回	4月17日	井上円了の活動主義について	竹村 牧男	40人
第92回	5月15日	魂をうちだす鍛冶のころもて —大倉山修養会の目的と実践—	星原 大輔	40人
第93回	6月19日	キリスト教の瞑想 —聖イグナチオの霊操とヴィパッサナー瞑想の活用—	柳田 敏洋	40人
第94回	3月19日	近代日本孤児院事業の軌跡と展開	峯岸 英雄	30人

## (2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

創立者大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であると説き、当財団を設立しました。

その一方で、大倉邦彦は上海の東亜同文書院で学んだ経験や、実業家として世界を廻った体験から、東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱しました。

そこで令和3年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めました。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めました。

### 【公開講演会】

研究成果の一部は、以下の<表-2>の通り、公開講演会で発表しました。8月、10月、11月の講演会は、大倉山講演会と同様の新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催いたしました。なお、愛知大学との共催による公開講演会は中止となりました。

<表-2「公開講演会」(中止も含む)>

■共催:愛知大学 会場:横浜市大倉山記念館ホール

回	開催日	演 題	講師	参加人数
—	7月3日	東亜同文書院(愛知大学)の卒業生(仮)	—	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催中止

■共催:横浜市大倉山記念館指定管理者 会場:横浜市大倉山記念館ホール

開催日	演 題	講師	参加人数
8月7日	映像に見る大倉邦彦の幼児教育と女子教育	林 宏美	36人

■共催:第37回大倉山秋の芸術祭実行委員会 会場:横浜市大倉山記念館第6集会室

開催日	演 題	講師	参加人数
10月31日	文化財としての大倉山記念館の魅力	平井 誠二	15人

■共催:岡倉天心市民研究会 会場:横浜市大倉山記念館ホール



回	開催日	演 題	講師	参加人数
第8回	11月27日	天心と三溪－原家と作家への支援－	清水 緑	38人

■共催:横浜市大倉山記念館指定管理者 会場:横浜市大倉山記念館

回	開催日	演 題	講師	参加人数
	2月	今昔建築サロン(自然編)	高橋 良寿	新型コロナウイルス 感染拡大防止のため 開催中止

### (3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学研究及びその普及活動を行う上で、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。

このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創設から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。令和3年度は、経常的な資料整理作業(附属明細書参照)に加えて、特にアナログ音源と写真のデジタル化事業に取り組みました。

#### ア アナログ音源のデジタル化事業

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。

令和3年度は、SPレコード20枚をデジタル化しました。

#### イ 写真のデジタル化事業

沿革史資料の中には、当研究所設立準備中から今日に及ぶ様々な写真類も含まれています。これらの写真は、当財団の活動内容や地域の様子を知る上で貴重な情報源となります。外部機関よりの問合せや借用依頼も多いことからデジタル化を進めています。

令和3年度は、特に所蔵するアルバムの中から、大倉邦彦を撮影した写真、大倉山記念館の建物内外や周辺地域を撮影した写真をインターネットで公開しました。

#### ウ 沿革史資料目録のOPAC公開

現在整理作業中の沿革史資料は、整理済み資料の目録件数が約110,000件となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。そこで、平成30年(2018)度より目録データを、図書館情報管理システム「情報館」のデータに順次変換し、OPAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による目録公開を開始しています。

令和3年度は、13,533点の書誌データを公開しました(10頁「3(ア) 貴重コレクション書誌データのOPAC公開」参照)。

#### エ 資料の展示

資料調査や研究成果公開の一環として、以下の〈表-3〉の通り、研究所資料展を2回開催しました。

<表-3「資料展一覧」>

■主催 会場:横浜市大倉山記念館第6集会室

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第43回研究所資料展	10月29日～31日 (3日間)	大倉山記念館の魅力 ～横浜市指定有形文化財指定30周年～	—

\*展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。

■主催 会場:横浜市大倉山記念館回廊

回及び開催場所	開催時期	テーマ	入場者数
第44回研究所資料展	3月12日～実施中	大倉邦彦と大倉山記念館	—

\*展示会場がオープンスペースのため、入場者数はカウントできません。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、精神文化の研究成果を広く国民全体に普及し、国民生活の向上充実に役立つように公開する手段の1つとして、印刷物や電子情報を提供しています。

ア 研究紀要『大倉山論集』の編集・刊行

3月に『大倉山論集』第68輯(A5判 415頁 550部)を刊行しました。

<表-4『大倉山論集』第68輯 目次>

小特集 ころを磨き からだを鍛える	
特集にあたって	公益財団法人大倉精神文化研究所
江戸時代医学諸派にみる身体観と養生思想	町 泉寿郎
井上円了の活動主義について	竹村 牧男
魂をうちだす鍛冶のころもて—大倉山修養会の目的と実践—	星原 大輔
聖イグナチオ・デ・ロヨラの霊操とキリスト教的ヴィパッサナー瞑想	柳田 敏洋
論説	
駿河今川氏による今橋城及び田原城の落城時期再考	小林 輝久彦
神奈川県明治天皇聖蹟	打越 孝明
資料紹介	
史料翻刻 木下韃村日記(十)―②	木下韃村日記研究会
翻刻 研究所沿革史資料「精神運動書翰」(大倉先生教育事業の記録)	公益財団法人大倉精神文化研究所
受贈図書一覧	
所報	

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、財団の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット



ット等の広報用資料を編集・発行しました。

令和3年度は、「横浜市大倉山記念館ロケ地ガイドマップ vol.1」(令和元年制作)の続編として、平成23(2011)年以降に大倉山記念館でロケーション撮影を行った映像作品を紹介する「横浜市大倉山記念館ロケ地ガイドマップ vol.2」を編集・発行しました。

### ウ 『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』の刊行

創業者大倉邦彦の伝記は、創立60周年(平成4年)を記念して作成した『大倉邦彦伝』がありますが、1,000ページ余りもの大部であり、内容も大人向けです。そこで、大倉邦彦没後50年の記念とともに、令和4年の創立90周年に向け、次世代を担う子どもたちにも読みやすく、内容理解が容易な大倉邦彦の伝記として、7月に『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』(A4判 62頁 3000部)を刊行しました。完成した刊行物は、横浜市港北区内の小・中学校並びに大倉邦彦の生地である佐賀県神埼市内の小中学校、研究所来訪者等に配布しました。

### エ 電子情報の発信

当財団のホームページ等を活用し、研究成果や講演会、展示会等の情報を積極的に発信しました。また、SNSの活用として、ツイッターによる情報発信も行いました。

令和3年度は、次に掲げる3つの事業を実施しました。

#### (ア) デジタルアーカイブの構築を含めた財団ホームページ全面改定

創立90年の令和4年に向けて、アクセシビリティの向上やデジタルアーカイブの充実を図ることを目的に、デジタルアーカイブの構築を含めたホームページの全面改定の準備を進めました。

#### (イ) 『大倉山論集』などのPDF(Portable Document Format)によるネット公開

4月に『大倉山論集』第67輯の内容を、8月に『マンガで学ぶ 大倉邦彦物語』の全ページをPDFにてネット公開しました。

#### (ウ) 映像作品「富士見幼稚園の一日」等の公開

大倉邦彦が設立した富士見幼稚園での様子を撮影した動画『富士見幼稚園の一日 第一巻』『富士見幼稚園の一日 第二巻』『富士見幼稚園 明朗篇』『富士見幼稚園の記録』の4本を、当財団のYouTubeチャンネルにて公開しました。

## 2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及

### (1) 他機関との連携事業

大倉山エルムフォトクラブ、小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会、横浜市大倉山記念館指定管理者等の8団体・機関と連携して、講演会の開催や資料の貸し出し等を行いました(前掲分は省略/中止・延期を含む)。

<表-5 「他団体・機関との連携事業」>

時期	主催団体・機関名	連携事業
7月13日~19日	大倉山エルムフォトクラブ	「創立25周年記念写真展」を協力

8月1日～15日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「マンガで学ぶ大倉邦彦物語 刊行記念 オープンギャラリー」を共催
9月12日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデー」を共催
9月25日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー 第1回」を共催
10月17日(中止)	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「チャンバラ合戦-戦 IKUSA-小机城 秋の陣」を共催
10月24日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「港北ふるさと映像上映会」を共催
10月27日～11月1日	第37回大倉山秋の芸術祭実行委員会	「第37回大倉山秋の芸術祭」を後援
11月8日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和3年度「港北地域学」講座第1回に協力
11月14日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー 第2回」を共催
11月20日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机の重政」上映会」を共催
11月23日	鶴見川流域水協議会	「鶴見川改修期成同盟会 設立100周年記念鼎談」に協力
11月28日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー 第3回」を共催
12月12日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー 第4回」を共催
1月7日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和3年度「港北地域学」講座第2回に協力
1月22日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机の重政」上映会」を共催
1月23日	小机城のあるまちを愛する会、よこはま縁むすび講中実行委員会	「小机城ガイドツアー 第5回」を共催
2月5日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和3年度「港北地域学」講座第3回に協力
2月6日	よこはま縁むすび講中実行委員会	「よこはま縁むすび講中シンポジウム」を共催
2月13日	横浜市大倉山記念館指定管理者	「大倉山記念館オープンデー」に協力
2月27日(延期)	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	「建築家 隈研吾氏 大倉山を語る」講演会」を協力
3月11日(中止)	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	令和3年度「港北地域学」講座第4回に協力

## (2) 講師派遣

下田地域ケアプラザ等の12団体・機関からの依頼により、講演、授業、シンポジウム等に講師を



派遣しました(中止・延期を含む)

<表-6 「他機関との連携一覧」(中止・延期も含む)>

時期	団体・機関名	テーマ及び派遣講師
4月19日	下田地域ケアプラザ等	「日吉の歴史めぐり～わが町再発見！日吉の魅力～」(平井 誠二)
4月30日(中止)	下田地域ケアプラザ等	「まち歩き回答編」(平井 誠二)
5月8日(延期)	篠原城と緑を守る会	「杉山神社フォーラムIV」(平井 誠二)
8月21日	鶴見川舟運復活プロジェクト	「ニッパの西方寺」(平井 誠二)
9月4日(延期)	城郷小机地域ケアプラザ	「城郷地区の成り立ちと歴史」(平井 誠二)
9月17日(延期)	神奈川東ロータリークラブ	「港北の地名と鶴見川の水害」(平井 誠二)
9月18日	鶴見川舟運復活プロジェクト	「内山順が見た昭和30年代の新羽」(平井 誠二)
10月8日	横浜ボランティアガイド協議会	「横浜のまちの変遷～鉄道によって変わった港北」(平井 誠二)
12月4日	城郷小机地域ケアプラザ	「城郷地区の成り立ちと歴史～城郷地区のことを知って、もっと好きになろう！」(平井 誠二)
12月8日	昭和女子大学近代文化研究所	「横浜市大倉山記念館の意匠―大倉邦彦と長野宇平治の理念―」(星原 大輔)
12月11日	篠原城と緑を守る会	「杉山神社フォーラムIV」(平井 誠二)
12月12日	芹沢銈介緞帳プロジェクト	「下絵の元になった鶴見川流域絵図」(平井 誠二)
1月7日	港北区役所地域振興課、港北区区民活動支援センター	「名城のまち小机！その歴史と魅力」(林 宏美)
2月4日(中止)	神奈川東ロータリークラブ	「港北の地名と鶴見川」(平井 誠二)
2月10日(中止)	港北土木事務所	「愛護会向け研修会 大倉山記念館と大倉山梅林」(平井 誠二・林 宏美)
2月19日(中止)	地域インターネット新聞社	「大倉山梅林と研究所を歩く」(林 宏美)
2月26日	鶴見川舟運復活プロジェクト	「神隠とは？」(平井 誠二)
2月28日	港北昔ばなし紙芝居の会「たまてばこ」	「港北の昔ばなしについて」(平井 誠二)

### (3) 依頼原稿の執筆

ASA大倉山情報紙等の2団体・機関発行の情報紙や学術雑誌等へ21本の原稿を執筆し、掲載されました(附属明細書参照)。

#### (4) 調査協力・記事掲載

- ① 4月15日、株式会社社育鵬社へ出版物掲載資料として若杉要肖像の画像データを提供しました。
- ② 4月20日、峯岸様より地域資料の寄贈を受けました。
- ③ 4月20日、7月10日、9月18日、12月9日、2月2日、3月29日、寺田様より横綱武蔵山関係資料の寄贈を受けました。
- ④ 6月22日、宮城県美術館へ出版物掲載資料として風景画「晩秋の富士(石川誠)」の画像データを提供しました。
- ⑤ 6月29日、大曾根小学校6年1組の総合的な学習に協力しました。
- ⑥ 6月、富川様より地域資料の寄贈を受けました。
- ⑦ 8月3日、NHK「日本のおなまえ」の取材撮影に協力しました。
- ⑧ 8月14日、カウカモ編集部の取材撮影に協力しました。
- ⑨ 9月15日、RSK山陽放送へ放送掲載資料として、1)大倉山文化精神図書館、2)昭和20～30年代の大倉山駅前通り、3)昭和30年代の大倉山駅付近、の画像データを提供しました。
- ⑩ 11月、宮原様より大倉精神文化研究所に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑪ 11月、陣内様より大倉邦彦に関する資料の寄贈を受けました。
- ⑫ 1月、神奈川県図書館協会研修委員会の第4回研修会「デジタルアーカイブの活用研修会」の資料作成に協力しました。
- ⑬ 3月29日、内山様より地域資料の寄贈を受けました。
- ⑭ 大倉精神文化研究所や大倉山記念館、港北区などに関する記事執筆の調査への協力や、当財団主催イベント紹介が、『新横浜新聞』等の19新聞・雑誌・ウェブで、40記事掲載されました(附属明細書参照)。

#### (5) 見学案内

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、見学受付を中止しました。

### 3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

#### (1) 図書館の公開

当館は、哲学・宗教・歴史などの入門書から専門図書まで約11万冊を備えた精神文化の専門図書館です。毎週火曜日から土曜日まで週5日、午前9時30分から午後4時30分まで無料で公開しています。

令和3年度は、緊急事態宣言発出期間の8月2日から9月30日まで、開館時間を前後30分ずつ短縮いたしましたが、上記の期間以外は、消毒・マスク着用・検温・換気・透明パーティションの設置等の感染防止対策を徹底したうえで、ほぼ平常どおり開館しました。開館日数の増加により、入館者数・登録者数・図書貸出数・複写枚数などの数値が前年度を大きく上回り、多くの来館利用がありました。(表-7「図書館利用の実績」参照)。



<表-7 図書館利用の実績>

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
開館日数	243日	205日	225日
入館者数	4,622人	2,926人	5,282人
貸出カード登録者数(累計2,157人)	236人	111人	171人
図書貸出数	5,870冊	2,863冊	4,436冊
閉架図書閲覧者数	71人	51人	60人
閉架図書閲覧冊数	170冊	244冊	229冊
複写枚数	2,174枚	903枚	1,020枚
レファレンス件数	25件	53件	12件
蔵書検索アクセス数	1,430,542件	4,224,401件	1,065,416件
館内見学	受入中止	受入中止	311人

## (2) 資料の収集

### ア 資料の収集方針

当館では、精神文化に関する専門的図書資料、特に神道・儒教・仏教及び歴史の専門的資料に重点を置いた収集を行うと共に、入門書・教養書等も幅広く収集・整備することを方針としています。

令和3年度は、新たに1,001冊の図書を収集・整備し、OPACで公開しました(表-8「受入図書実績」参照)。

<表-8「受入図書実績」>

	令和3年度			令和2年度		
	購入	寄贈	(小計)	購入	寄贈	(小計)
閉架図書	34	75	109	4	138	142
開架図書	650	242	892	579	101	680
(合計)	684	317	1,001	583	239	822
AV	0	0	0	0	4	4

令和3年度末蔵書冊数:図書・AV資料総数:107,054冊・点  
(閉架書庫83,307冊・開架図書23,526冊・AV資料221点)

### イ「やさしく読める心の本コーナー」の開設

大倉邦彦没後50年(令和3年)を記念して、7月1日、子どもたちが自分の生き方や心について考えることを目的とした「やさしく読める心の本コーナー」を開設しました。コーナーには、593冊の本と64点の紙芝居を配架しました。

## (3) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

### ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

当館の貴重コレクションは、23種約40,000冊に研究所沿革史資料(約110,000点)を加えた

24種類に及びます。これらの資料の大半は他館に書誌情報がないため、独自に書誌情報のデータ化を進めており、前年度までに15コレクションのOPAC検索が可能となっています。

令和3年度も残る9コレクションの書誌データの詳細化を進め、令和3年度は、次に掲げる3つの事業を実施しました。

- (ア) 前年度に引き続き、和装本コレクション(約9,600冊)の虫損被害状態等の確認作業を行い、新たに約1,600冊のデータを詳細化しました。
- (イ) 大倉邦彦旧蔵文庫(約3,000冊)の書誌データ568冊を作成し(累計2,340冊作成)、創立90年(令和4年度)に、作成済みの書誌データをOPAC公開するための準備を進めました。(第2期5箇年計画の1年次目)
- (ウ) 研究所沿革史資料の書誌データ13,533点を、OPACにて公開しました。(総データ数50,692件、3頁「1(3)ウ 沿革史資料目録のOPAC公開」参照)。

### イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名といった最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード・目次等を追加する詳細化の作業を継続的に進めています。

令和3年度は、閉架書庫内に残る簡易書誌データのうち、約3,000冊の詳細化を行いました(10箇年計画の5年次目)。

### ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピーを禁止しており、その代替措置として、複写依頼のあった資料は司書によるデジタル撮影を行っています。

令和3年度は、大学・研究機関・研究者等からの複写依頼を受け、貴重コレクション服部富三郎旧蔵文庫『大學師説』、『綱齋先生雑説』、名古屋大周寺文庫『説一切有部律撰』、『澄禅和尚行状記』、大名榊原家文庫『神宮雑記』等、20件965枚の撮影を行いました。

### エ 資料の保全

近年の図書館・博物館等の資料保存庫は、防虫、防カビ対策として、湿度・温度を一定に維持するため、外気を遮断した構造を備えています。しかし、築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではないため、書庫内換気のサーキュレーター稼働、防虫のための粘着マット使用、カビ除去作業等を年間通して行っています。

しかしながら、令和3年度に入り、書庫の階段周辺の資料を中心にカビが多く見られるようになりました。これは昨年度、新型コロナウイルス感染防止対策として、公開書庫の窓を開閉して換気を行ったため、外気の流入で書庫内環境が変化したことが原因として推測されます。そこで、カビの除去と合わせて、カビの原因となる埃の付着防止のため、図書の上部(天)に中性紙を被せる作業を行いました。

また、令和3年度は貴重資料の保全のため、下記の事業を実施しました。



#### (ア) 資料保存箱設置事業

令和3年度は、個別の保存箱作成が難しい資料の棚全体を覆う中性紙の保存箱を設置し、貴重資料の保全を図りました。作業は専門業者へ委託し、6棚40箱(約2,500冊分)を設置しました。

#### (イ) 和装本の保存箱作成

ボランティアの協力を得て継続してきた和装本各冊の保存箱作成は、新型コロナウイルス感染防止のため、緊急事態宣言が発出された8月から9月、まん延防止等重点措置が実施された令和4年1月から3月までの5箇月間活動を中止しました。活動期間は7箇月でしたが、大名榊原家文庫140個(累計1,428個)の保存箱を作成しました。

### (4) 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

#### ア レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が求められています。質問や相談内容によっては、研究員とも連携し、利用者のニーズに応えるレファレンスサービスの提供に努めました。

令和3年度は、株式会社ブレインテックが主催するオンラインセミナー「情報館：デジタル資料公開機能について」等に参加して、資料提供能力の向上を図りました。

#### イ インターネットの活用

当館の利用者は、全国の研究者と近隣住民に大別できます。研究者はインターネット検索により、専門資料の利用に至り、一方、近隣住民は直接来館し一般図書を利用します。

令和2年度は一時、来館利用を予約本の貸出・返却に制限したことから、インターネットからの予約件数が大幅に増加しました。令和3年度は、ほぼ通常どおりの来館が可能となりましたが、予約者数・予約図書冊数ともに、コロナ禍前の令和元年度から倍以上に増加しています(表-9「予約者数・予約冊数実績」参照)。

また、予約以外にも、複写申込や閲覧申込、レファレンスサービス等にインターネットを活用し、利便性の向上を図りました。

<表-9「予約者数・予約冊数実績」>

	令和3年度	令和2年度	令和元年度
新着本・貸出中図書予約者数	265人	284人	97人
予約図書冊数	468冊	520冊	222冊

### (5) 利用促進のための広報活動

#### ア 附属図書館利用案内リーフレット等の作成

令和3年度は、「やさしく読める心の本コーナー」開設に合わせて、利用案内リーフレットを改訂しました。コーナー開設に合わせて、港北区内の小学校・中学校へチラシを配布し、広報を行ったところ、夏休みには多くの子どもたちの利用がありました。また、本の持ち運びに使用できる図書館バックを記念品として作成し、利用登録をして本を借りた子どもたちへ配布しました。

## イ ホームページでの情報発信

ホームページ上で新着本・おすすめ本の紹介を毎月2回掲載し、年間を通して資料展示・催し物の案内を随時更新して、情報発信を行いました。

## ウ 所蔵資料の紹介展示

### (ア) 図書館資料展—テーマ展示—

令和3年度は、貴重コレクションを主な展示品とする「図書館資料展」を計7回開催しました(表-10「図書館資料展」参照)。このうち第26回、第28回、第29回の3回は、「やさしく読める心の本コーナー」開設記念展示として開催しました。

<表-10「図書館資料展」(閲覧室内展示ケース・入口展示ケースに展示)>

	タイトル	期間	入場者数
第26回	貴重コレクションを探るシリーズ 教科書は時代とともに	4月13日～5月8日	345人
第27回	タゴール月間 タゴール 日本との出会い	5月12日～5月28日	243人
第28回	貴重コレクションを探るシリーズ 続・教科書は時代とともに	6月8日～7月3日	289人
第29回	「やさしく読める心の本」新設記念—子どもの心を育てた本—	7月6日～9月25日	932人
第30回	写経に託された願い—般若心経— (第37回大倉山秋の芸術祭でのワークショップ「写経」関連)	9月28日～11月27日	767人
第31回	干支で迎える新年 (大倉陶園からいただいた虎の絵皿のお披露目)	12月17日～1月29日	405人
第32回	鶴見川と大倉精神文化研究所—第5回鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰記念 (水害の歴史や防災に関する催しの実施等に対する感謝状)	2月15日～4月(継続中)	963人 (~3/31)

### (イ) 図書館ミニ展示—イベント関連展示等—

当館では、当財団が開催する大倉山講演会その他のイベント(1~4頁「1 精神文化の研究およびその成果の普及」参照)の広報や、参加者が内容理解を深めることを目的として、閲覧室の小スペースを利用し、関連図書の展示を行いました。図書館ミニ展示は、身近なテーマの資料展示を含め、計8回開催しました(表-11「図書館ミニ展示」参照)。展示した資料はどれも貸出可能としており、多くの利用がありました。

<表-11「図書館ミニ展示」(第1閲覧室内に展示) ※印はイベント関連展示>

タイトル	期間	入場者数
※第22回 井上円了の教育観・人生観 (4月17日開催の大倉山講演会「井上円了の活動主義について」関連)	4月1日～4月30日	375人
※第23回 大倉山修養会と大倉邦彦 (5月15日開催の大倉山講演会「魂をうちだす鍛冶のころもて～大倉山修養会の目的と実践」関連)	5月6日～5月29日	319人



※第24回	キリスト教の瞑想 (6月19日開催の大倉山講演会「キリスト教の瞑想－聖イグナチオの 霊操とヴィパッサナー瞑想」関連)	6月1日～6月30日	320人
第25回	図書館でまなぶ豊かな心 仏教を知る (第37回大倉山秋の芸術祭でのワークショップ「写経」関連)	9月1日～9月30日	380人
第26回	図書館でまなぶ豊かな心 仏教の経典を読む (第37回大倉山秋の芸術祭でのワークショップ「写経」関連)	10月12日～11月20日	545人
※第27回	天心と三溪 (11月27日開催の公開講演会「天心と三溪」関連)	11月25日～12月24日	338人
第28回	図書館でまなぶ豊かな心 江戸の科学者	1月15日～2月16日	481人
第29回	鶴見川	2月17日～3月31日	918人

#### (ウ) タゴール月間記念展示

インドの詩聖タゴールの誕生月と、昭和4年来日時の大倉邦彦邸宿泊が5月だったことから、当財団では毎年5月をタゴール月間として、関連資料の展示を行っています。

令和3年度は、5月12日から28日に、「タゴール文庫」から資料の展示を行いました(表-10「図書館資料展」参照)。

#### エ 大倉山秋の芸術祭

近隣の住民が集う大倉山秋の芸術祭では、「写経 コロナ禍収束の祈りをこめて」と題し、ワークショップを開催しました。ワークショップでは、西方寺副住職の伊藤仁海氏の御詠歌と法話を拝聴した後、各自「般若心経」を写経しました。開催期間中の日曜日は臨時開館も実施し、新規利用者の獲得に向けたPRを行いました。

#### オ 図書館総合展

図書館総合展は、毎年全国の図書館や関連企業・団体が参加する図書館業界最大規模の催しで、令和3年度はオンラインとサテライト会場による開催となりました。当館はサテライト会場で行われた専門図書館を紹介するパネル展示に参加し、利用案内リーフレット等を提供しました。

#### カ 取材協力・記事掲載

- ① 『事例で学ぶ図書館サービス概論1』(吉井潤、青弓社、2022年1月刊行)に、地域に愛される専門図書館として当館も紹介されました。
- ② 港北区役所・港北図書館作成の「港北区 本との出会いマップ」の改訂にともない、附属図書館の紹介欄を更新し、「やさしく読める心の本コーナー」のPRも加えました。
- ③ 令和2年度の図書館総合展「図書館見学会\_ONLINE」に参加した図書館紹介動画「大倉精神文化研究所附属図書館オンライン見学」が、図書館情報サイト「Jcross(ジェイクロス)」と、『ごぞんじですか?第126回 Jcrossコレクション「図書館の紹介動画」/森本未祐』(専門図書館No. 308号、2022年3月)で紹介されました。